

Change the Moroyama

毛呂山町を！

変える



第19号

岡部
和雄
かずお

若者が定住するまちへ

時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。
さて岡部和雄は、毛呂山町長選挙に挑戦するため、3月2日
毛呂山町議会議員を辞職し、町民目線に立ち、希望のもてる町
づくりに向けた政治活動を開始しました。
7期目途中での辞職は4年前の選挙でご支援賜りました皆様
に大変申し訳なく心よりお詫び申し上げます。
しかしながら毛呂山町は、少子高齢化・人口の減少の速度が
速く、今までの4年間での町政運営では、ジリジリと衰退し、
果て、若者はどんどん町を離れてしまいます。
今日からでも、町づくりの考え方を変え、お金の使い方を工
夫しないと4年後には大変になります。次の世代に「も
ろやま」を引き継ぐには、今までの町政運営を大きく転換し
なければなりません。
私は、私の政治生命をかけて挑戦する決意です。
町民の皆様方におかげましては、ぜひともこの機会にこれか
らの毛呂山町をお考え頂ければ幸いです。
まだまだ寒い日が続きます。くれぐれも御身体をご自愛くだ
さいますようお祈り申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

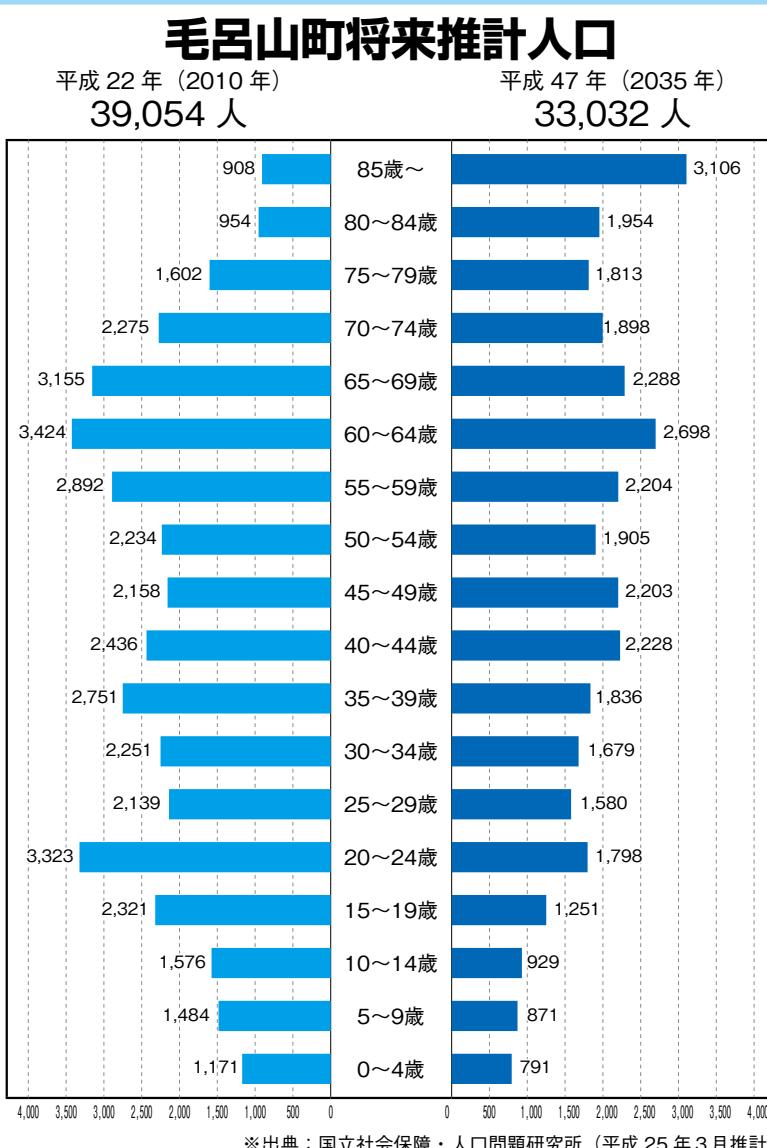
【略歴】 昭和33年5月17日 毛呂本郷に生まれる
昭和49年3月 毛呂山中学校卒業
昭和52年3月 県立松山高校卒業
昭和57年3月 東洋大学経済学部卒業
昭和62年8月 初当選以来連続当選

【主な経歴】
・毛呂山町議会議長1期
・毛呂山町議会副議長2期
・西入間広域消防組合議会議長
・毛呂山町法人会副会長
・毛呂山町商工会副会長

毛呂山町は、着実に少子化・高齢化・
人口の減少が進行しており、町財政も年々
厳しくなっています。左図は、2010
年の国勢調査を元に国立社会保障・人口
問題研究所の簡易推計表を使って推計し
た2010年と25年後の2035年の5
歳ごとに集計した人口比較です。
総人口が減つて64歳以上の高齢者が増
える見込みです。働き手が減り、高齢者
が増え、人口が減る社会が想定されます。
つまり、働き手が減るため税収も減り
ます。高齢者が増えますので、医療や福
祉費が増えます。だから、財政改革や、
市町村の広域化が議論されているのです。

企業を誘致することと同時に既存の町
内業者に地元雇用を強く要望し、若者の
働き口を確保することが、税収増につな
がります。まず、私は先頭に立ち、必ず
実現する気力と努力で町政運営に立ち向
かいます。

(裏面へつづく)



岡部かずお後援会

町政見聞録 19号

討議資料

〒350-0451 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 227
TEL: 049-294-0018 FAX: 049-294-5345

変える

若者が定住するまちへ 民間の知恵を活かした土地利用 住民の知恵と協力による町づくり

毛呂山町の農業政策は大事な町づくりの一つです。時代に合った夢のある農業とは何でしょうか。

町内には、農業振興地域（いわゆる青地）があり、農地は分家住宅や農業上認められたものに限られています。そのため、滝ノ入地区はじめ、各地で農産物の直売所や、地場で育てた野菜を使ったレストランや食堂など創業の意欲を持つ方々の後押しに時間がかかります。私たち先頭に立つて県や国に出向き、早急に実現させます。正に町長のリーダーシップです。

3 農地転用の具体的な手法を 早急に見つけます

共働き夫婦が増えているため、乳児医療費・保育料・一時保育・妊婦健診などの負担を減らす支援政策が必要です。町のお金の使い方を工夫し、子育て支援にお金が使えるようにします。また、学校給食費の半額を公費負担し、家計の負担を軽減します。定住策として町内に家を建てる子育て世代に地元建築業者の施行に限り最大五十万円の支援金制度を設立します。

他市町に負けない企業誘致の優遇措置を創ります。他市町よりも条件が良くなれば毛呂山町を選んでくれません。また町の方々が正社員として雇用されるよう誘導します。そして企業や住宅開発の専門窓口を設置し、他市町に負けない迅速な対応をします。さらに企業にとつて操業しやすい環境を設備するための意見交換の場を創設します。

現代はスピードの時代です。毛呂山町を選んでほしいなら、きめ細かく、しかも迅速な相談体制は、最低条件です。

2 子育てしやすい環境整備

歩道がない、道が狭い、側溝がない、下水が整備されないなど、地域の合意に基づき、地域に合ったインフラ整備をします。

土地の有効活用には道路設備は重要な条件です。道があれば住宅や工場が建てられる、側溝があれば排水ができます。

各行政区ごとに「町づくり委員会」の創設を提案し、自分たちの地域をどうしたらいいか、どんな設備が実現可能か、少ない予算の中で考えて頂き、町はそれを支援する仕組みを作ります。

4 地域の実情にあった生活 環境設備

町づくりへの思い

国の予算の内、収入の30%は借金、支出の25%は借金の返済です。せめて、その年の収入程度に支出を合わせないと、いつまでも借金は増え続けてします。消費税増税により、町の財政がよくなるとは思えません。今こそ地方創生の時代です。

自分たちの町は、自分たちで責任をもって自治体運営すべきです。それには、収入の増と支出の見直ししかありません。

私は、医療・福祉・教育の必

要な予算は最大限確保しつつ、残りのお金で知恵を出し、「町づくり」をすべきだと考えています。町にお金が無い以上、行政主導の「町づくり」は限界です。地域の方々が立ち上がり、みんなで知恵を出し協力することでしか、地域の衰退を止めることはできません。そのための町ができる、人的、財政的支援をするべきであると思います。

これからも、今日までの私の経験と人脈を大いに活用し、今までの行政運営を大きく変え「町づくり」を前にすすめています。



若者が定住するまちへ
民間の知恵を活かした土地利用
住民の知恵と協力による町づくり